

○介護保険施設入所者に対し、介護者による毎食後の口腔清掃＋週に1～2回歯科医師もしくは歯科衛生士による口腔衛生管理を実施したところ、対照群に比べて、口腔ケア群では期間中の発熱発生率が低く、2年間の肺炎発症率が低かった。

- 対象：特別養護老人ホーム入所者 366名（肺炎以外の原因で死亡した者を除く）
- 方法：口腔ケア介入群(184名：平均年齢82歳)と対照群(182名：平均年齢82歳)を無作為割り付け
2年間の発熱発症率、肺炎発症率を調査
対照群：入所者本人または介護者による口腔清掃
口腔ケア群：介護者による毎食後の口腔清掃＋週に1～2回歯科医師もしくは歯科衛生士による専門的、機械的な口腔清掃
- 発熱者：37.8℃以上の発熱が開始日より起算して7日以上発熱があったもの
- 肺炎発症者：新たな肺浸潤像がレントゲン上で認められることならびに咳、37.8℃以上の発熱、呼吸困難といった主要症状で、入院もしくは死亡したもの

